

令和5年度 第1回伊豆市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和5年7月19日（水）10時～

場所：伊豆市役所 別館2階 大会議室

出席者：委員17名（欠席4名）

他2名、事務局3名

1 開会

2 会長挨拶

<市長挨拶>

おはようございます。大変暑い中ご参集いただきありがとうございます。

市長を務めて15年過ぎ、地域公共交通会議を何度も開催して参りましたが、これまで以上に極めて厳しい局面に入ったという気がいたします。これまでは、伊豆市内で路線バスをどのように守るかという観点でしたが、観光客に多く乗っていただいている路線でも値上げや便数を減らさなければならぬだろうという状況です。

今まで以上に具体的な将来施策を考えなければならない状況ですが、タクシーを使用したデマンド型の運行は伊豆市内ではニーズがなく、また地域のボランティアによる通院・買い物支援が具体化していますが、これらは地域公共交通会議とは別の場で議論すべき課題かと思えます。

私たちは地域公共交通会議の中で、どこに焦点を当てて、何を行政がやっていくのか、或いは行政では限界があるのかという点を議論していく段階に入りつつあると考えております。会議では皆様の議決を頂く協議の場となっておりますので、これらの点についてご議論を頂き、また自由な意見がありましたら頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

3 委嘱状の交付

4 議題

(1) 地域公共交通会議の役割・市の公共交通の現状について【資料1・資料2】

<資料説明>

- ・事務局より資料1、資料2について説明

<質疑応答>

委員：地域公共交通会議の役割の中で運賃料金等に関する事項を協議すると書いてあるが、出席している限りこれらの事項に協議した実績がないと思う。また、不採算路線の実績値について令和4年度が出てないのはなぜか。

事務局：路線について協議する必要があるれば、議題として挙げさせていただく。令和4年度は現段階では見込みの数字しかなく、確定している実績値として令和3年度分を記載している。

委員：気づいた点であるが、資料2の鉄道の乗降者数をみると、修善寺駅では乗車人員よりも降車人員の方が多く10%ほど差異があり、おそらく観光客が多いからと思うが、今後の計画で参考にできたらと思う。

事務局：正に観光客利用の多い駅であるので、ご意見を活用させていただきたい。

委員長：牧之郷は人口が増えているが、駅前に関しては減少している。三島駅から修善寺駅までは都市整備により住宅地を確保して、鉄道の乗降客数を増やさなければならぬにも関わらず、駅前の人口が減っているのが伊豆市の課題である。

(2) 伊豆市生活交通ネットワーク形成計画推進事業について

令和4年度事業評価・令和5年度以降の事業計画について【資料3】

<資料説明>

・事務局より資料3について説明

<質疑応答>

・質疑なし

<議決>

・「異議なし」のため承認

(3) 伊豆市公共交通再編検討業務について【資料4】

<資料説明>

・事務局より資料4について説明

<質疑応答>

委員：利便増進計画を策定するためには、地域公共交通計画を改定してその中に位置付ける必要があり、策定にも1年程度かかると考えられるため、取り組む内容や期間にもよるがお示しのスケジュールでは難しいと感じた。また、国交省で策定に係る補助制度もあるので、その活用も含めてご相談いただきたい。

事務局：詳細については運輸支局とご相談させていただきながら、計画としては最終的に利便増進計画まで出来たら良いという考えのもとお示ししている。

委員長：病院の移転によって国道・県道沿いに病院やスーパーが集中し、公共交通で行けるはずであるが、実態は通院や買物で公共交通を使われてない。車の運転ができなくなる前に公共交通を使って維持しようという意識が伊豆市は弱いと感じている。

委員：ネットワーク形成計画の計画達成率ほどの程度だったのか。地域公共交通会議の前に検討会の立ち上げを提案させていただいたが、まだ実現できていない。地域の意見や利用者の声を吸い上げるために必要ではないか。

事務局：計画達成率について詳細は手元にないが、3本立ての目標がある中で、自主運行バスの利用者数の現状維持という目標値は達成できていない。

委員長：いきいきパスは地域の利用を増やしてきた成果と思っている。また、乗り方教室も実施したがあまりバスを利用する意欲が増えておらず、行政が啓発していく必要があると考えている。

委員：送迎バスのヒアリングは修善寺温泉にもするのか。

委員長：修善寺温泉は、バスやタクシーに影響するため送迎バスを出していない。一方各病院ではワゴン車の送迎を出している。

(4) 中伊豆温泉病院線路線変更について【資料5】

<資料説明>

- ・事務局より資料5について説明

<質疑応答>

- 委員 : 利用者目線で見たとときに、循環系統になれば便利になるのではないかと思った。無料送迎バスとの調整については、不公平感が出ないように慎重にやっていたかなければならないと思慮する。
- 事務局 : 無料送迎については、昼間の路線バスが少ない時間帯に運行していると聞いているが、今後新中学校の再編の際にも影響してくるので、ご意見の通り病院と協議をしていきたいと思っている。
- 委員長 : 循環という話もあったが、都市公園の整備によって人の動きが変わることも考えられるため、都市圏の動向の中で検討を進めていきたい。

(5) 柿木大野線・柿木循環線ダイヤ改正について【資料6】

<資料説明>

- ・事務局より資料6について説明

<質疑応答>

- ・質疑なし

5 その他

- 委員長 : バス・貨物だけでなく、あらゆる事業所で(乗務員)不足が深刻化しているが、バス事業者としての意見をお聞きしたい。
- 委員 : 現在、市内の営業所が一番乗務員不足に悩まされている。もともと貸切と路線が統合された営業所のため、乗合が不足する時は貸切乗務員が応援に当たっている。要員としては5名程度不足している。有給休暇の計画付与もギリギリの取得状況となっている。
- 委員 : 弊社も同様に深刻な状況となっており、温泉場線も減便をさせていただいている。乗務員は稼げないから辞めていったという人も多かった。コロナ禍が明けて貸切の要請が増えている状況ではあるが、乗合応援などで受けきれっていない。採用活動をして、バス事業への就業志望が少なくなっている。雇用ができれば解決に進むのではないかと思慮している。
- 委員 : 現場の実情としては、朝夕の通勤通学時間帯に集中し、昼間の運行が減っていくと昼間は解放となってしまふ。拘束時間の割に収入が低いことから乗務員の離職に繋がっているものと考えている。
- 委員 : 鉄道でも平日休日関係なく、泊まり勤務もあるので就労希望者が集まらない。アルコールチェック義務化後、社内では酒気帯運転の数値より厳しい数値で乗務させないようにしており、該当した場合社内評価にも反映するといった事もあるため、なかなか採用が進まなくなっている。

委員長：交通手段は変動料金制を早く導入してほしいと考えている。例えば伊豆中央道では通行料無料化予定であるが、休日等、観光客は多少金額が高くても利用してもらえるのではないか。観光地に向かう路線バスでは値上げなどを検討してもいいのではないかと考えている。

6 閉会